

風土記の丘の花だより¹⁵⁷

今、そしてこれから見られる植物(2022年10月22日)

先日、来園者の方からおたずねがありました。「イロハカエデとイロハモミジのどこが違うのか」ということでした。そこにはたしかに二通りの名札が掛かっていました。私の不手際できちんと整備できていなかったのです。「一般にモミジと呼ばれる木がカエデで、モミジはハゼノキやツタなども含めた紅葉する木の総称です」とお答えしましたが、混乱を招き申し訳ありませんでした。図鑑や本などにはどちらも載っていますが、こちらとしてはイロハカエデに揃えたいと思っています。



前山A58号墳、埴輪がたくさん並んでいる古墳の向こう斜面にメナモミがきれいに咲いています。オナモミと名前が似ていますが、見た目は全く違います。また、オナモミは実の刺でひっつきますが、メナモミは花の粘液でひっつきます。触ってみてください、花の周りは粘液でベトベトしています。



写真ではわかりにくいですが、イヌコウジュの花です。よく似たヒメジソは道端にもよく咲いていますが、これはそれよりも少ないです。で、どこが違うのかというと、ややこしくて、萼の先がとがっているとか、茎に毛が多いとか、葉の鋸歯が多いとか、本当に興味が無いと見比べようという気にもなりません。これは天王塚に向かう右斜面で見つけたものです。



谷山家の庭で台湾ホトトギスが満開をむかえています。ふつう庭に植えられていて、ホトトギスと呼ばれている花がこれです。本当のホトトギスとは花の付き方が違って、この株は、茎の先の方から花茎が伸び、枝分かれして多くの花を付けます。写真に写りこんでいるハチみみたいな虫は、ホシホウジャクというスズメガの仲間です。



風土記の丘では数少ないクコの花が咲いています。赤い実はよく知られていて、薬用として採取されることも多くおられるようです。近くでは紀の川の河川敷などに群生が見られるナス科の植物です。そう言えば花の色が似ていますね。

松下